

具体的な取り組み

拠点

未来へ向かうまち ~コクラ・クロサキリビテーション



リビテーションとは、リビルド(建替え)+インビテーション(引き込む)を掛け合わせた本市独自の名称です。

小倉・黒崎の拠点エリアでは、民間開発の誘導と企業誘致の促進を重点的に図るため、ビルの建替え費用の補助や、容積率・駐車場などの規制緩和を行う「コクラ・クロサキリビテーション」をスタートしました。

この取り組みを進めることで、安全安心で魅力ある街をつくり、若者に好まれるIT企業の誘致や、快適で環境にやさしい「グリーンスmartビル」の普及など、「まちづくりビジョン」や「SDGs未来都市」の実現を目指します。

小倉地区のリーディングプロジェクト

グリーンスmartビル
「(仮称)ミクニ魚町ビル」の建設
令和6年4月オープン(予定)

施設の特徴

- 環境性能(省エネ)の高い仕様
- 100%再生可能エネルギーの使用
- 感染症への対策
- 防災、セキュリティ機能の充実
- 歩きたくなるような街並み形成



▲外観のイメージ

問 建築都市局事業推進課
☎582・2469

未来を描く「2050まちづくりビジョン」

本市では、将来のまちの姿を描き、「その将来像を実現するために何が必要か」を考えて実践する“未来志向のまちづくり”を進めていきます。そのモデルケースとして、令和4年3月に小倉・黒崎・東田の3地区において、約30年後の2050年の将来像を示す「2050まちづくりビジョン」を策定しました。今後は、3地区での官民連携の取り組みを周辺に波及させ、本市の活力あるまちづくりを推進していきます。



▲市ホームページ「2050まちづくりビジョン」の策定について

◆小倉地区の「2050年まちのビジョン」

交流を生み、創造性を高めるまちごとワークプレイス

どこでも、働く、交わる、くつろげる企業や働く人から選ばれるまち

◆黒崎地区の「2050年まちのビジョン」

個性輝くアクティブタウン

多様性を認め合い、支え合うみんなが住みたくなるまち

◆東田地区の「2050年まちのビジョン」

未来スタイルのショーケース

先端技術の未来空間で、見る、感じる、新たな感動体験ができるまち

問 建築都市局都市再生企画課
☎582・2502

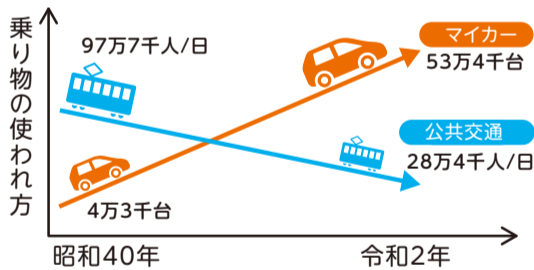
周辺市街地

安心して移動できるまち ~乗って守ろう公共交通

市の現状

自家用車の普及や人口の減少、また近年は新型コロナウイルスの影響により、電車やバスといった公共交通の利用者が年々減少しています。

昭和40年から令和2年までで、1日の公共交通利用者が約69万人も減少しました。



このままでは、路線バスの減便や廃止によりバスなどが通っていない「公共交通の空白地域」が広がり、さらに利用者が減る悪循環に陥る恐れがあります。

公共交通は、通学や通勤、買い物など生活に欠かせない移動手段です。

公共交通を確保するための市の主な取り組み

公共交通空白地域をこれ以上上げないためには、一人でも多くの人に公共交通を利用していただくことが重要です。

小型バスなどの運行による路線の維持・確保

利用者が少ないバス路線の効率的な運行のため、車両の小型化で路線を維持するバス事業者に運行経費の助成を行っています。



小型バス

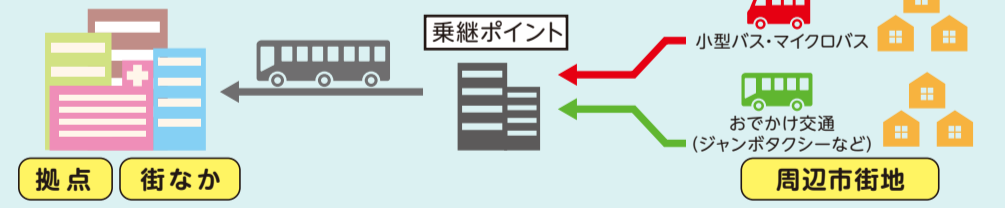


マイクロバス

おでかけ交通の運行による生活交通の確保

一定の人口が集積する公共交通空白地域の交通手段を確保するため、地域住民、交通事業者、市がそれぞれの役割分担のもと連携してジャンボタクシーなどを運行しています。

(イメージ)



問 建築都市局都市交通政策課 ☎582・2518

周辺市街地

災害に強くコンパクトなまち ~区域区分の見直し

少子高齢化や、近年頻発する想定を超えるような災害など市が直面する課題を将来に向けて拡大させないため、災害の恐れがある地域や人口密度の低下が見込まれる地域などで、新たな住宅地開発などにより市街化が広がらないようにするため本市では、市街化調整区域への見直し(区域区分の見直し)に取り組んでいます。

見直しを進めるにあたっては、都市計画手続きに着手する前から、市民の皆さんの意向を把握するため、市が提案する候補地や修正案に対して意見を伺っているところです。今後も、引き続き説明会を開催し、皆さんの意見を広く聴きながら丁寧に進めてまいります。

すでに公表している見直し候補地修正案(第1版)や説明会の日程などは、市のホームページ(右記読み取り)でもご覧になれます。

説明会の日程など詳細については各区版(12頁)をご覧ください。



▲市ホームページ「区域区分の見直し」

問 建築都市局都市計画課
☎582・2451